

追記
木尾（後）の【後記】を以下に添付します。併せてご参照ください。

【後記】

本稿は、平成十一年三月二十七日に尚古集成館の文化講座（鹿児島市仙巖園秀成荘）で話した「人口動態からみた薩摩藩社会」、及び同年四月十七日に鹿児島歴史研究会（歴史資料センター黎明館）で行った発表「人口動態からみた薩摩史研究上の諸問題」のそれぞれの一部、並びに『鹿児島史学第45号』（鹿児島県高等学校歴史部会編）に最近発表した「薩摩史研究上の人口動態からみた諸問題」をベースにして作成した。

本稿作成にあたっては、松下志朗氏（福岡大学教授）・原口泉氏（鹿児島大

学教授）・前床重治（県立大島高等学校長）・有坂道子氏（京都大学）・徳永和喜氏（黎明館主任学芸専門員）等より貴重な史料の提供を受けた。末尾ながら、記して厚く御礼の意を表したい。

ところで、本文でも述べたが、先に本誌に発表した「薩摩藩の人口」（『黎明館調査研究報告11』）の発表の後、筆者は前稿には若干の考察の不足や資料提示上の不備があることに気づいた。したがって従来からの考察や指摘、及び提示のデータの一部を次のように改めさせていただきたい。

1 享保内検期（一七二二～二七）の琉球国人口と薩摩藩総人口について

享保期の琉球国人口の記述を留める「薩摩例規雑集」の存在を知らずして発表した前稿では、宝永期の同国人口に比較した場合の享保内検期の「大御支配次第帳」の人口データに不可解の念を抱きながらも、本文中で同期の琉球国人口として一三万人前後から一四万人台の存在は推定できるとして、これにその他の薩摩藩四領域の人口を加えた総人口を約七十五万人から七六万人と推定できるとし、その推定値を第19表「鹿児島藩の国・島嶼別人口推移」にも掲げたが、これらをいづれも撤回して、「薩摩例規雑集」や「沖縄市史」・『近世沖縄の素顔』（田名真之）等により知られるデータに基づいて、享保内検期の琉球国人口は一六万人台後半から十七万人台、同国を含む薩摩藩総人口は約七八万人から七九万人位と推定されると訂正させていただきたい。

2 明和九年（一七七二）の道之島と琉球国の人口について

前稿の第19表では、明和九年の道之島と琉球国の一般集計分人口にその除外分人口（行脚・乞食など）を合わせた人口を前者七万四八九九人・後者一七万四二二二人としているが、これには集計処理上のミスから道之島の除外分一人を琉球国分に混入させている。したがって改めて明和九年の一般集計除外分を含めた道之島人口は七万四九一〇人、同じく琉球国人口は一七万四二二一人

と訂正させていただきたい（典拠、『鹿兒島県史 第二巻』に収める明和九年「要用集抄」の人口データ）。

3 明治四年（一八七二）頃の大隅国・日向国諸県郡、及び

三州本領域の人口について

前稿では明治四年の薩摩藩三州領域の人口を掲げるにあたり、筆者の資料作成の不備や校正上のミスから明治初期に一時期日向国所屬となっていた末吉郷（もと大隅国所屬）の人口八五八七七分を欠落させている。したがって前稿で明治四年頃の七五万人台と推定していた三州人口を、末吉郷分を考慮に入れて七六万人台と訂正させていただきたい。なお、これとその他の若干の揭示データの不備を正すために、前稿第17表「鹿兒島藩の郷別・男女別人口」と第18表「鹿兒島藩の郷別・身分別人口」を、それぞれ本稿の第6表と第7表のとおりさしかえさせていただきたい。

なお、江戸時代を通じて大隅国に所屬して明治四年当時には日向国に所屬していた末吉郷の人口については、前代のデータとの比較や利用の便益上、薩摩藩領の三州内訳人口を掲げた第2表、及び同年の大隅国と日向諸県郡の人口を掲げた第6表と第7表においては、いずれも日向国分から抜いて大隅国分に加えて示している。

4 第二論文に掲げた延宝五年（一六七七）の三州本領域の

人口について

筆者は最近発表した第二論文で京都大学文学部所蔵の「古文書集六」中の「延宝五年丁巳年札改薩隅日人数一紙目録」に収められた薩摩藩人口データの一部を紹介したが、その際、延宝五年（一六七七）の薩隅日三州本領域部の全人口を同年の宗門手札改の際に一般集計分として計上された三七万九一四二人のみの数値をもって全人口として掲げ、慶賀・行脚・死苦・乞食等の除外人口分一〇八一人を欠落させる過失を犯している。したがって、この両人口を合算し

た三万八〇二三人をもって延宝五年段階の薩摩藩三州全人口と改めて訂正させていただきたい。

【参考】

本稿の第五節「日向国諸県郡域の近世中・後期の人口停滞の背景」の論述の典拠として用いた享保初期の霧島山噴火関係史料のうち、これまで一般にはあまり知られていない鹿兒島大学附属図書館所蔵の「古記 下」（A）、及び財団法人陽明文庫所蔵の新史料三点（B）の記事全文を掲げる。

A、「古記 下」の享保二年の項に収める霧島山噴火関係記事

一 正月七日、雪、今日より廿一日迄霧島時々大焼、七日昼八ツ過時分に成候得者、鹿府より火光見ゆる、同八日夜五ツ時分神火夥數、其晩に成程晴夜、同十日昼四ツ時分より同十一日九ツ時分より大焼、砂石はうすく、一時二時計ツ、間有之、晝時欵半時欵ツ、焼候、正月七日降砂石、山之口にて例見、此中よりはうすく一步に一斗三升計にて候由、今度砂降候外城、高原・高崎・野尻之内、高城・山之口・都城之内也、
一 今度高原・高崎表、霧島度々大焼二付、為見分御目付横目被遣置候処、正月十七日帰宅二而首尾被申出候、後表高原・高崎、衆中・百姓皆共に岸有之所ハ元ヲ拵、岸無之所者庭を掘、大竹を以塩屋之様に拵、上者茅を藪、其上に野柴を打掛置候、野山道江者大小之石落候而、少々之焼者不絶有之、砂降世間曇天二而道を行候時も半首をかむる、就中高原之内二而も花堂之在所壺宇も不残焼払、大木立なから枝を打落し、怪我人数多、牛馬之飼料も近外城より入付候、絶言語候事之由被申候、依之右片付方として大御目付吉岡右京殿・御用人谷山角太夫殿・高原地頭左近允与太夫殿、其外地頭之衆・御目付・横目被差遣候、当正月十一日御改、
一 砂入外城拾貳所
一 焼失家六百四軒 一 焼牛馬四百五疋

- 一怪我人三拾三人
- 一田島六千式百四拾町八反六畦拾六歩
- 一高にして六万六千八百八拾式石余損地二相成、

B、陽明文庫所蔵の霧島山噴火関係史料の記事

1 「享保元年十一月薩摩藩届覚（近衛家宛）」

松平薩摩守領国大隅国之内霧島山不絶少々相燃候所有之候処、申九月廿六日夜大分燃出、其辺焼失損失覚、

- 一堂社十一宇 焼失
- 一寺二ヶ寺 右同
- 一寺社之門前并町家数百四拾三軒 右同
- 一蔵一 右同
- 一米百三石余 右同
- 一高式万八千式百石余 砂入
- 一初千六百七拾石余 損失
- 一雜穀五百六拾七石 右同
- 一死人五人
- 一死牛馬五疋
- 十一月

2 「享保二年三月薩摩藩届覚（近衛家宛）」

松平薩摩守領国大隅国之内霧島山、旧臘廿六日より当正月十二日迄度々燃候而、日向国諸県郡之内諸所焼失并損失之覚

- 一高四万七千九百五拾石余 石砂灰入
- 一米雜穀千五百四拾五石余
- 一堂社拾壹宇
- 一寺家三拾軒

3 「享保二年三月薩摩藩届（近衛家宛）」

霧島山当正月十二日迄燃候所、于今煙絶不申、時々燃候得共、其後大燃者無御座候、

一日日向国諸県郡之内高原・高崎与申所、燃之近郷二而御座候故、火石落申候付、家屋等悉致焼失、男女領国之内諸所江立退、役人之者纔計相残、岸杯二穴を掘、火石を除罷居候、勿論燃鎮り不申内者、立退候者共茂当分之体候得者、立歸候儀難成事候、右所者近方故遠方より砂灰少々、大小之火石者大分落、田島及損失候、近年申本之通田島相開儀難成、尤当島作類一円無納罷成候、此外風下之儀ハ砂灰依所壹尺余、又者七八寸段々降積申候、右通候得ハ諸所之儀も大形島作及無納、仕付等茂難成由二御座候、

一霧島山より流出候川、此節之燃候付而、水勢十部壹程罷成候、此川水隅州之内専田地之用水二而御座候処、右通干損、其上硫磺水二罷成、魚類迄茂痛申候付、別而田地之障二罷成等候、然共当分二而ハ何程之痛与申候儀ハ難計由二御座候、

右之通、此節申来候付、此段も申上置候、以上、

三月

- 一士并社家寺門前百姓家数六百四軒
- 一樅・梅・杉・赤松・岳杉・桧有之材木山八九里廻
- 一死人壹人
- 但男
- 一怪我人三拾人
- 一死牛馬拾五疋
- 三月

第6表 薩摩藩の郷別・男女別人口 明治4年(1871)頃

1. 薩摩国

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉	郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
鹿児島	43,589 〈51.0%〉	41,842 〈49.0%〉	85,435 ※実際の集計値は 85,431 (100.0%)	黒木	467 〈50.9%〉	450 〈49.1%〉	917 〈100.0%〉
吉田	1,926 〈50.2%〉	1,911 〈49.8%〉	3,837 〈100.0%〉	山崎	2,099 〈52.9%〉	1,866 〈47.1%〉	3,965 〈100.0%〉
郡山	2,314 〈51.1%〉	2,213 〈48.9%〉	4,527 ※実際の集計値は 4,527 (100.0%)	大村	1,691 〈50.7%〉	1,644 〈49.3%〉	3,335 ※実際の集計値は 3,335 (100.0%)
伊集院	9,199 〈50.7%〉	8,939 〈49.3%〉	18,138 〈100.0%〉	蘭牟田	808 〈52.6%〉	729 〈47.4%〉	1,526 ※実際の集計値は 1,537 (100.0%)
永吉	2,266 〈53.6%〉	1,961 〈46.4%〉	4,227 〈100.0%〉	牛山 ※旧大口・ 山野・羽月 郷よりなる	4,596 〈51.8%〉	4,280 〈48.2%〉	8,876 ※実際の集計値は 8,876 (100.0%)
吉利	1,580 〈51.5%〉	1,487 〈48.5%〉	3,067 〈100.0%〉	鶴田	1,691 〈51.4%〉	1,598 〈48.6%〉	3,289 〈100.0%〉
串木野	8,111 〈51.0%〉	7,795 〈49.0%〉	15,906 〈100.0%〉	佐志	552 〈46.1%〉	646 〈53.9%〉	1,198 〈100.0%〉
日置	3,494 〈50.8%〉	3,225 〈48.0%〉	6,719 〈100.0%〉	出水	9,481 〈51.0%〉	9,110 〈49.0%〉	18,591 〈100.0%〉
市来	8,362 〈50.8%〉	8,089 〈49.2%〉	16,451 ※実際の集計値は 16,451 (100.0%)	長島	3,673 〈51.3%〉	3,486 〈48.7%〉	7,159 〈100.0%〉
入来	2,312 〈50.9%〉	2,232 〈49.1%〉	4,544 ※実際の集計値は 4,544 (100.0%)	高尾野	2,004 〈50.2%〉	1,989 〈49.8%〉	3,993 〈100.0%〉
樋脇	2,512 〈50.1%〉	2,500 〈49.9%〉	5,012 〈100.0%〉	野田	1,087 〈52.4%〉	988 〈47.6%〉	2,075 〈100.0%〉
永利	1,103 〈50.8%〉	1,070 〈49.2%〉	2,173 ※実際の集計値は 2,173 (100.0%)	阿久根	5,534 〈51.2%〉	5,284 〈48.8%〉	10,818 ※実際の集計値は 10,818 (100.0%)
平佐 ※樋脇の中・ 楠元・倉野 村が入る	2,086 〈50.3%〉	2,064 〈49.3%〉	4,150 〈100.0%〉	水引	4,171 〈50.2%〉	4,136 〈49.8%〉	8,307 〈100.0%〉
隈之城	3,117 〈50.7%〉	3,025 〈49.3%〉	6,142 〈100.0%〉	高城	4,434 〈51.5%〉	4,171 〈48.5%〉	8,605 〈100.0%〉
高江	1,291 〈49.4%〉	1,323 〈50.6%〉	2,614 〈100.0%〉	川辺	5,698 〈49.8%〉	5,749 〈50.2%〉	11,447 〈100.0%〉
東郷	(☆3,822) 〈50.3%〉	(☆3,773) 〈49.7%〉	(☆7,595) 〈100.0%〉	勝目 ※旧山田郷 なり	1,661 〈49.9%〉	1,672 〈50.1%〉	3,333 〈100.0%〉
甌島	7,866 〈52.0%〉	7,261 〈48.0%〉	15,127 ※実際の集計値は 15,127 (100.0%)	加世田	15,887 〈50.3%〉	15,708 〈49.7%〉	31,595 〈100.0%〉
宮之城	4,385 〈50.9%〉	4,223 〈49.1%〉	8,608 〈100.0%〉	南方 ※旧鹿籠・ 坊泊・久志 秋目を合す	6,183 〈50.9%〉	5,972 〈49.1%〉	12,155 〈100.0%〉

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉	郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
額 娃	7,650 〈48.9%〉	7,996 〈51.1%〉	15,676 ※実際の集計値は 15,646 (100.0%)	山 川	3,049 〈48.5%〉	3,240 〈51.5%〉	6,289 〈100.0%〉
阿 多	2,824 〈49.2%〉	2,918 〈50.8%〉	5,747 ※実際の集計値は 5,742 (100.0%)	今和泉	2,850 〈50.1%〉	2,835 〈49.9%〉	5,685 〈100.0%〉
田布施	3,785 〈50.9%〉	3,647 〈49.1%〉	7,432 〈100.0%〉	谷 山	10,594 〈50.2%〉	10,493 〈49.8%〉	21,087 〈100.0%〉
伊 作	6,078 〈50.5%〉	5,953 〈49.5%〉	12,025 ※実際の集計値は 12,031 〈100.0%〉	三 島	312 〈50.2%〉	311 〈49.8%〉	623 〈100.0%〉
喜 入	4,091 〈49.4%〉	4,185 〈50.6%〉	8,276 〈100.0%〉	硫黄島	130	123	253
知 覧	6,617 〈49.8%〉	6,661 〈50.2%〉	13,278 〈100.0%〉	黒島	146	142	288
指 宿	5,862 〈50.6%〉	5,726 〈49.4%〉	11,588 〈100.0%〉	竹島	36	46	82
				七 島	367 〈47.8%〉	400 〈52.2%〉	767 〈100.0%〉
				口之島	51	54	105
				中蛇島	52	53	105
				平島	35	33	68
				諏訪之瀬島	34	38	72
				悪石島	0	0	0
				宝島	57	61	118
					138	161	299

[出典：『薩隅日地理纂考』(明治4年正月15日、鹿児島県教育会編)]

- 注1. 本表は、近世中期以降の薩摩国所属の郷を抽出して作成してある。
2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
4. 記載が欠落している東郷の人口については、参考までに明治10年代前半(1881年頃)のデータを収める『鹿児島県地誌』の数値を掲げた。
5. 表末参考の合計値は上記注4の東郷分の数値は含めていない。
6. 上記『鹿児島県地誌』に掲げる東郷人口は次のとおりである。

(参考) 東郷を除外した合計人口

東郷を除く 薩摩国人口	男子数	女子数	合計
	231,309 (50.7%)	225,003 (49.3%)	456,425 ※実際の集計値は 456,612 (100.0%)

☆明治初期の薩摩国推計人口(含、東郷)

薩摩国総人口	46万3千～4千位か	(100.0%)
(内訳) 男子	23万4千～5千人位か	(51%弱)
女子	22万8千～9千人位か	(49%強)

明治10年代前半(1881年頃)の東郷総人口
〈内訳〉

7,595人(100.0%)

A. 男子人口

①士族男 1,324人 計3,822人(50.3%)
②平民男 2,498人

B. 女子人口

③士族女 1,299人 計3,773人(49.7%)
④平民女 2,474人

7. 嘉永5年の『要用集』と明治4年の『薩隅日地理纂考』に掲げる薩摩藩の人口数値に基づく、この20年間に薩摩国ではおよそ18%前後の人口増加があったことが推定される。その後の10年間にこれとほぼ同じ年増加率で東郷人口が増えたと仮定して明治4年段階の人口を算出すると約7,000人の数量が得られる。また当該期の東郷の男子と女子人口が明治10年代前半とほぼ同じ比率で存在していたと仮定してそれぞれの人口を算出すると、ともに3,500人前後の数量が得られる。これらの数量をベースにして藩政最末期(明治4年頃)の薩摩国の総人口及びその男女の内訳人口を推定すると、おおよそ上表最下段にしめしたような推定人口を得ることができる。

2. 大隅国

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉	郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
帖佐	2,906 〈55.0%〉	2,381 〈45.0%〉	5,487 ※実際の集計値は 5,287 (100.0%)	吉松	1,194 〈49.9%〉	1,198 〈50.1%〉	2,352 ※実際の集計値は 2,392 (100.0%)
重富	1,975 〈53.1%〉	1,742 〈46.9%〉	3,717 〈100.0%〉	太良 ※本城・曾木郷を合わせなる	2,514 〈51.3%〉	2,386 〈48.7%〉	4,900 〈100.0%〉
蒲生	3,081 〈52.3%〉	2,805 〈47.7%〉	5,886 〈100.0%〉	菱刈 ※湯之尾・馬越郷を合わせなる	1,430 〈51.3%〉	1,357 〈48.7%〉	2,787 〈100.0%〉
山田	1,705 〈52.6%〉	1,538 〈47.4%〉	3,243 〈100.0%〉	桜島	5,808 〈50.8%〉	5,621 〈49.2%〉	11,429 〈100.0%〉
溝辺	1,710 〈52.6%〉	1,538 〈47.4%〉	3,248 〈100.0%〉	牛根	2,287 〈53.0%〉	2,028 〈47.0%〉	4,328 ※実際の集計値は 4,315 (100.0%)
加治木	4,967 〈52.9%〉	4,419 〈47.1%〉	9,386 〈100.0%〉	垂水	5,946 〈52.4%〉	5,394 〈47.6%〉	11,340 〈100.0%〉
襲山 ※旧日当山・曾於郡郷よりなる	3,444 〈55.2%〉	2,791 〈44.8%〉	6,195 ※実際の集計値は 6,235 (100.0%)	新城	932 〈52.8%〉	832 〈47.2%〉	1,764 〈100.0%〉
清水	2,234 〈58.7%〉	1,605 〈41.8%〉	3,839 〈100.0%〉	小根占	2,572 〈50.7%〉	2,497 〈49.3%〉	5,069 〈100.0%〉
敷根	1,275 〈54.7%〉	1,058 〈45.3%〉	2,333 〈100.0%〉	大根占	1,881 〈52.1%〉	1,733 〈47.9%〉	3,612 ※実際の集計値は 3,614 (100.0%)
福山	2,516 〈51.3%〉	2,387 〈48.6%〉	4,903 〈100.0%〉	田代	900 〈54.1%〉	765 〈45.9%〉	1,665 〈100.0%〉
財部	3,002 〈51.7%〉	2,803 〈48.3%〉	5,805 〈100.0%〉	佐多	2,194 〈49.6%〉	2,229 〈50.4%〉	4,423 〈100.0%〉
恒吉	1,409 〈52.5%〉	1,275 〈47.5%〉	2,684 〈100.0%〉	内之浦	1,550 〈53.3%〉	1,359 〈46.7%〉	2,909 〈100.0%〉
市成	1,029 〈51.3%〉	978 〈48.7%〉	2,007 〈100.0%〉	高山	3,497 〈52.2%〉	3,200 〈47.8%〉	6,697 〈100.0%〉
岩川 ※末吉の五 十町・中之 内村を割く	1,996 〈50.6%〉	1,946 〈49.4%〉	3,942 〈100.0%〉	串良	4,385 〈51.0%〉	4,206 〈49.0%〉	8,591 〈100.0%〉
国分	9,470 〈55.3%〉	7,666 〈44.7%〉	17,144 ※実際の集計値は 17,136 (100.0%)	鹿屋	3,457 〈52.1%〉	3,175 〈47.9%〉	6,635 ※実際の集計値は 6,632 (100.0%)
踊	2,012 〈52.6%〉	1,815 〈47.4%〉	3,826 ※実際の集計値は 3,827 (100.0%)	始羅	1,598 〈51.6%〉	1,497 〈48.4%〉	3,095 〈100.0%〉
横川	1,907 〈51.1%〉	1,826 〈48.9%〉	3,793 ※実際の集計値は 3,733 (100.0%)	大始良	2,268 〈51.8%〉	2,107 〈48.2%〉	4,385 ※実際の集計値は 4,375 (100.0%)
栗野	2,078 〈51.9%〉	1,929 〈48.1%〉	4,007 〈100.0%〉	花岡	1,515 〈53.4%〉	1,323 〈46.6%〉	2,845 ※実際の集計値は 2,838 (100.0%)

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
高隈	1,033 〈50.5%〉	1,014 〈49.5%〉	2,047 〈100.0%〉
百引	1,179 〈50.5%〉	1,155 〈49.5%〉	2,334 〈100.0%〉
種子島	〈☆ %〉	〈☆ %〉	〈☆18,000余〉 〈100.0%〉
屋久島	3,318 〈49.7%〉	3,364 〈50.3%〉	6,682 〈100.0%〉

(参考) 種子島・末吉を除外した合計人口

種子島・末吉を除く大隅国人口	男子数	女子数	合計
	100,174 (52.4%)	90,942 (47.6%)	191,334 ※ 実際の集計値は 191,116 (100.0%)

☆当時、日向国所属の末吉郷の人口

郷名	男子数	女子数	合計
末吉	4,392 〈51.1%〉	4,195 〈48.9%〉	8,587 〈100.0%〉

[出典：『薩隅日地理纂考』(明治4年正月15日、鹿児島県教育会編)]

- 注1. 本表は、近世中期以降幕末期までの大隅国所属の郷を抽出して作成してある。
 2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
 3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
 4. 記載が欠落している種子島の項の総人口(☆)については、西村天因の『南島偉功伝』に収める慶応4年=明治元年(1868)段階の数値を参考までに掲げた。
 5. 表末の合計数値には上記注4の種子島及び当時日向国所属の末吉の分は含めていない。
 6. 安政元年頃改定の『要用集』及び上記『南島偉功伝』には種子島の人口について次のような数値を掲げる。

(1) 『要用集』に掲げる種子島人口

嘉永5年(1852)の種子島人口 13,932人(100.0%)

〈内訳〉

A. 男子人口判明分

①家来男	2,450人	計5,485人(39.4%)
②出家男	39人	
③百姓男	1,966人	
④塩屋男	319人	
⑤浦人男	668人	
⑥野町人男	43人	

B. 女子人口

⑦家来女	2,153人	計4,268人(30.6%)
⑧百姓女	1,395人	
⑨百姓女	212人	
⑩浦人女	482人	
⑪野町人女	26人	

C. 男女人口内訳不明分

⑫家中足軽以下 末々男女	4,113人	計4,179人(30.0%)
⑬公義流入男女	66人	

☆明治初期の大隅国推計人口(含、種子島・末吉)

(2) 幕末期以降の種子島人口(『南島偉功伝』)

文化元年(1804)	14,209人
慶応4年=明治元年(1868)	18,000人余
明治15年(1882)	20,117人
明治30年(1897)	24,226人

大隅国総人口 21万後半~22万人台か(100.0%)

(内訳) 男子 11万人台半ばか (約52%弱)
 女子 10万人台前半か (約48%強)

7. 嘉永5年~明治30年に至る約45年間の種子島人口の増加分(10,294人)は嘉永期の約74%の増加、年率1.6%の増加率である。ほぼ同じ増加率で明治初期にも種子島人口が増えていったと仮定した場合、明治4年段階の種子島人口として18,700人前後の数量が得られる。また嘉永期の性別不明の人口率30%分(4,179人)を仮に男女均等に配分した場合、同期の種子島の男女比率として男子54.4%・女子45.6%の数値が得られる。この男女比率で明治4年段階の種子島人口が存在していたと仮定して算出した場合、当該期の男子人口として約10,200人・女子人口として約8,500人の数量が得られる。これらをベースに藩政最末期(明治4年頃)の大隅国総人口及び男女別内訳人口を旧属末吉郷(当時、一時期日向国編入)の分まで含めて推定すると、おおよそ上表最下段にしめしたような推定人口を得ることができる。

3. 日向国諸県郡

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉	郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
綾	710 〈55.6%〉	566 〈44.4%〉	1,276 〈100.0%〉	真幸 ※旧吉田・ 馬関田郷よ りなる	867 〈52.6%〉	780 〈47.4%〉	1,647 〈100.0%〉
小林	2,622 〈51.7%〉	2,453 〈48.3%〉	5,075 〈100.0%〉	加久藤	1,072 〈52.2%〉	983 〈47.8%〉	2,055 〈100.0%〉
高岡	3,187 〈52.8%〉	2,852 〈47.2%〉	6,039 〈100.0%〉	飯野	1,095 〈50.3%〉	1,083 〈49.7%〉	2,078 ※実際の集計値は 2,178 (100.0%)
穆佐	989 〈52.9%〉	881 〈47.1%〉	1,870 ※実際の集計値は 1,870 (100.0%)	須木	572 〈51.2%〉	546 〈48.8%〉	1,118 〈100.0%〉
倉岡	551 〈51.4%〉	520 〈48.6%〉	1,071 〈100.0%〉	野尻	1,250 〈55.4%〉	1,006 〈44.6%〉	2,256 〈100.0%〉
上三股 ※旧高城郷 なり	1,469 〈52.5%〉	1,331 〈47.5%〉	2,800 〈100.0%〉	高原 ※旧高崎郷 を編入せり	2,563 〈53.3%〉	2,248 〈46.7%〉	4,811 〈100.0%〉
山之口	989 〈52.9%〉	881 〈47.1%〉	1,870 〈100.0%〉	志布志	3,524 〈52.6%〉	3,171 〈47.4%〉	6,695 〈100.0%〉
下三股 ※旧勝岡郷 に都城榎山 村が入る	3,196 〈51.4%〉	3,025 〈48.5%〉	6,221 〈100.0%〉	松山	997 〈52.3%〉	908 〈47.7%〉	1,905 〈100.0%〉
都城	6,600 〈51.1%〉	6,320 〈48.9%〉	12,920 ※実際の集計値は 12,920 〈100.0%〉	大崎	3,035 〈54.1%〉	2,571 〈45.9%〉	5,606 〈100.0%〉
荘内 ※旧都城の 一部を割き 設置	6,029 〈51.6%〉	5,645 〈48.4%〉	11,674 〈100.0%〉	合計	41,317 〈52.2%〉	37,770 〈47.8%〉	79,087 ※実際の集計値は 79,087 (100.0%)

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降幕末期までの日向国諸県郡所属の郷を抽出して作成してある。
2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
4. 明治4年段階の日向国諸県郡には旧属大隅国の末吉郷が編入されていたが、前代のデータとの比較や利用の便益上、末吉郷の人口は日向国から抜いて大隅国の箇所に移して掲げ、人口集計値も大隅国人口に加えて示してある。

☆明治初期の日向国諸県郡人口（実集計値）
※志布志・松山・大崎を含む、末吉は除く

日向国総人口 79,087人（100.0%）

（内訳）男子 41,317人（52%強）
平民 37,770人（41%弱）

第7表 薩摩藩の郷別・身分別人口 明治4年(1871)頃

1. 薩摩国

郷名	士卒数 <比率>	平民数 <比率>	合計 <比率>	郷名	士卒数 <比率>	平民数 <比率>	合計 <比率>
鹿児島	士 26,992 <31.6%> 卒 2,571 ※実際の集計値は 2,567(3.0%)	55,872 <65.4%>	85,435 ※実際の集計値は 85,431 (100.0%)	甑島	士 4,011 ※実際の集計値は 3,966 (26.2%)	11,161 <73.8%>	15,172 ※実際の集計値は 15,127 (100.0%)
吉田	士 1,192 <31.1%> 卒 292 <7.6%>	2,353 <61.3%>	3,837 <100.0%>	宮之城	士 2,476 <28.7%> 卒 1,082 <12.6%>	5,050 <58.7%>	8,608 <100.0%>
郡山	士 1,600 ※実際の集計値は 1,333 (29.4%) 卒 186 <4.1%>	3,008 <66.5%>	4,535 ※実際の集計値は 4,527 (100.0%)	黒木	士 545 <59.5%> 卒 37 <4.0%>	335 <36.5%>	917 <100.0%>
伊集院	士 3,159 <17.4%> 卒 1,078 (6.0%)	13,901 <76.6%>	18,138 <100.0%>	山崎	士 623 <15.7%>	3,342 <84.3%>	3,965 <100.0%>
永吉	士 1,985 <47.0%> 卒 385 <9.1%>	1,857 <43.9%>	4,227 <100.0%>	大村	士 1,118 <33.5%> 卒 91 ※実際の集計値は 95(2.9%)	2,122 <63.6%>	3,331 ※実際の集計値は 3,335 (100.0%)
吉利	士 905 <29.5%> 卒 411 <13.4%>	1,751 <57.1%>	3,067 <100.0%>	蘭牟田	士 1,096 ※実際の集計値は 1,106 (72.0%) 卒 58 <3.8%>	373 <24.2%>	1,526 ※実際の集計値は 1,537 (100.0%)
串木野	士 1,593 <10.0%> 卒 20 <0.1%>	14,293 <89.9%>	15,906	牛山	士 2,922 ※実際の集計値は 2,918 (32.9%) 卒 17 <0.2%>	5,941 <66.9%>	8,880 ※実際の集計値は 8,876 (100.0%)
日置	士 1,291 <19.2%> 卒 446 <6.6%>	4,982 <74.2%>	6,719 <100.0%>	鶴田	士 1,167 <35.5%> 卒 9 <0.3%>	2,113 <64.2%>	3,289 <100.0%>
市来	士 3,216 <19.6%> 卒 483 ※実際の集計値は 513(3.1%)	12,722 <77.3%>	16,421 ※実際の集計値は 16,451 (100.0%)	佐志	士 384 <32.0%> 卒 25 <2.1%>	789 <65.9%>	1,198 <100.0%>
入来	士 2,699 <59.4%> 卒 242 <5.3%>	1,603 <35.3%>	4,514 ※実際の集計値は 4,544 (100.0%)	出水	士 5,806 <31.2%> 卒 30 <0.2%>	12,755 <68.6%>	18,591 <100.0%>
樋脇	士 2,033 <40.6%> 卒 36 <0.7%>	2,943 <58.7%>	5,012 <100.0%>	長島	士 2,270 <31.7%>	4,889 <68.3%>	7,159 <100.0%>
永利	士 1,232 <56.7%>	950 ※実際の集計値は 941 (43.3%)	2,182 ※実際の集計値は 2,173 (100.0%)	高尾野	士 1,869 <46.8%>	2,124 <53.2%>	3,993 <100.0%>
平佐 ※樋脇郷の 中・楠元・倉 野村が入る	士 1,890 <45.5%> 卒 57 <1.4%>	2,203 <53.1%>	4,150 <100.0%>	野田	士 729 <35.1%>	1,346 <64.9%>	2,075 <100.0%>
隈之城	士 2,018 <32.9%> 卒 75 <1.2%>	4,049 <65.9%>	6,142 <100.0%>	阿久根	士 1,268 <11.6%> 卒 54 <0.5%>	9,496 <87.0%>	10,910 ※実際の集計値は 10,818 (100.0%)
高江	士 1,061 <40.6%> 卒 491 <18.8%>	1,622 ※実際の集計値は 1,062 (40.6%)	2,614 <100.0%>	水引	士 1,659 <21.0%> 卒 253 <3.0%>	6,399 ※実際の集計値は 6,395 <77.0%>	8,307 <100.0%>
東郷	(☆2,623) <34.5%>	(☆4,972) <65.5%>	(☆7,595) <100.0%>	高城	士 4,267 <49.6%> 卒 56 <0.6%>	4,282 <49.8%>	8,605 <100.0%>

郷名	士卒数 〈比率〉	平民数 〈比率〉	合計 〈比率〉
川 辺	士 1,941 〈17.0%〉 卒 109 〈0.9%〉	9,397 〈82.1%〉	11,447
勝 目 ※旧山田郷 なり	士 1,234 〈37.0%〉	2,099 〈63.0%〉	3,333 〈100.0%〉
加世田	士 5,783 〈18.3%〉 卒 31 〈0.1%〉	25,781 〈81.6%〉	31,595 〈100.0%〉
南 方 ※旧鹿籠・ 坊志・久 秋目を合す	士 4,952 〈40.7%〉	7,203 〈59.3%〉	12,155 〈100.0%〉
穎 娃	士 2,139 ※実際の集計値は 2,109 (13.5%)	13,537 〈86.5%〉	15,676 ※実際の集計値は 15,646 (100.0%)
阿 多	士 1,391 〈24.2%〉 卒 55 〈1.0%〉	4,296 〈74.8%〉	5,747 ※実際の集計値は 5,742 (100.0%)
田布施	士 1,662 〈22.3%〉 卒 484 〈6.6%〉	5,286 〈71.1%〉	7,432 〈100.0%〉
伊 作	士 2,772 ※実際の集計値は 2,778 (23.1%) 卒 257 〈2.1%〉	8,996 〈74.8%〉	12,025 ※実際の集計値は 12,031 (100.0%)
喜 入	士 1,719 〈20.8%〉 卒 262 〈3.2%〉	6,295 〈76.0%〉	8,276 〈100.0%〉

郷名	士卒数 〈比率〉	平民数 〈比率〉	合計 〈比率〉
知 覧	士 4,542 〈34.2%〉 卒 146 〈1.1%〉	8,590 〈64.7%〉	13,278
指 宿	士 1,074 〈9.3%〉	10,514 〈90.7%〉	11,588 〈100.0%〉
山 川	士 347 〈5.5%〉	5,942 〈94.5%〉	6,289 〈100.0%〉
今和泉	士 906 〈16.0%〉 卒 167 〈2.9%〉	4,612 〈81.1%〉	5,685 〈100.0%〉
谷 山	士 3,422 〈16.2%〉 卒 1,301 〈0.9%〉	16,364 〈77.6%〉	21,087 〈100.0%〉
三 島	士・卒 0 〈0%〉	623 〈100.0%〉	623 〈100.0%〉
硫黄島	0	253	253
黒島	0	288	288
竹島	0	82	82
七 島	士・卒 0 〈0%〉	767 〈100.0%〉	767 〈100.0%〉
口之島	0	105	105
中之島	0	105	105
臥蛇島	0	68	68
平島	0	72	72
諏訪之瀬島	0	0	0
宝石島	0	118	118
島	0	299	299

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

注1. 本表は、近世中期以降の薩摩国所属の郷を抽出して作成してある。

2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
4. 記載が欠落している東郷の人口については、参考までに明治10年代前半(1881年頃)のデータを収める『鹿児島県地誌』の数値を掲げた。
5. 表末参考の合計値は上記注3の東郷分の数値は含めていない。
6. 上記『鹿児島県地誌』に掲げる人口は次のとおりである。

明治10年代前半(1881年頃)の東郷総人口
〈内訳〉 7,595人(100.0%)

A. 士族人口

- ①士族男 1,324人 計2,623人(34.5%)
- ②士族女 1,297人

B. 平民人口

- ③平民男 2,498人 計4,972人(65.5%)
- ④平民女 2,474人

7. 嘉永5年の『要用集』と明治4年の『薩隅日地理纂考』に掲げる薩摩藩の人口数値に基づくくと、この20年間に薩摩国ではおおそ18%前後の人口増加があったことが推定される。その後の10年間にこれとほぼ同じ年増加率で東郷人口が増えたと仮定して明治4年段階の人口を算出すると約7,000人の数量が得られる。また当該期の東郷の士族と平民人口が明治10年代前半とほぼ同じ比率で存在していたと仮定してそれぞれの人口を算出すると、前者については2,400人余、後者については約4,600人の数量が得られる。これらの数量をベースにして藩政末期(明治4年頃)の薩摩国の総人口及びその男女の内訳人口を推定すると、おおそ上表下段に示したような推定人口を得ることができる。

(参考) 東郷を除外した合計人口

東郷を除く薩摩国人口	士卒数	平民数	合計
	士 130,287	326,926	457,213
	※実際の集計値は 129,957 (28.5%)	※実際の集計値は 326,355 (71.5%)	※実際の集計値は 456,312 (100.0%)
	(内訳) 士族 118,960		
	※実際の集計値は 118,630 (26.0%)		
	卒族 11,327 (2.5%)		

☆明治初期の薩摩国推計人口(含、東郷)

薩摩国総人口	46万3千~4千人位か(100.0%)
(内訳)士・卒等	13万2千~3千人位か(29%強)
平民	33万1千人前後か(71%弱)

2. 大隅国

郷名	士卒数 〈比率〉	平民数 〈比率〉	合計 〈比率〉	郷名	士族数 〈比率〉	平民数 〈比率〉	合計 〈比率〉
帖佐	士 1,815 〈34.3%〉 卒 99 〈1.9%〉	3,373 〈63.8%〉	5,487 ※実際の集計値は 5,287 (100.0%)	横川	士 1,354 ※実際の集計値は 1,334 (35.7%) 卒 14 〈1.9%〉	2,425 ※実際の集計値は 2,385 (63.9%)	3,793 ※実際の集計値は 3,733 (100.0%)
重富	士 1,404 〈37.8%〉 卒 195 〈5.2%〉	2,118 〈57.0%〉	3,717 〈100.0%〉	栗野	士 949 〈23.7%〉 卒 30 〈1.9%〉	3,028 〈75.6%〉	4,007 〈100.0%〉
蒲生	士 3,396 〈57.7%〉 卒 70 〈1.2%〉	2,420 〈41.1%〉	5,886 〈100.0%〉	吉松	士 962 〈40.9%〉	1,390 ※実際の集計値は 1,430 (59.1%)	2,352 ※実際の集計値は 2,392 (100.0%)
山田	士 1,231 〈38.0%〉 卒 79 〈2.4%〉	1,933 〈59.6%〉	3,243 〈100.0%〉	太良	士 1,948 〈39.7%〉 卒 27 〈0.6%〉	2,925 〈59.7%〉	4,900 〈100.0%〉
溝辺	士 1,126 〈34.7%〉 卒 138 〈4.2%〉	1,984 〈61.1%〉	3,248 〈100.0%〉	菱刈	士 1,150 〈41.3%〉 卒 120 〈4.3%〉	1,517 〈54.4%〉	2,787 〈100.0%〉
加治木	士 3,686 〈39.3%〉 卒 375 〈4.0%〉	5,325 〈56.7%〉	9,386 〈100.0%〉	桜島	士 2,772 〈24.2%〉 卒 31 〈0.3%〉	8,626 〈75.5%〉	11,429 〈100.0%〉
襲山	士 2,843 〈45.6%〉 卒 39 〈0.6%〉 旧神官 159 〈2.6%〉	3,194 〈51.2%〉	6,195 ※実際の集計値は 6,235 (100.0%)	牛根	士 828 〈19.2%〉 卒 5 〈0.1%〉	3,495 ※実際の集計値は 3,482 (80.7%)	4,328 ※実際の集計値は 4,315 (100.0%)
清水	士 2,006 〈52.2%〉 卒 18 〈0.5%〉	1,815 〈47.3%〉	3,839 〈100.0%〉	垂水	士 3,005 〈26.5%〉 卒 754 〈6.6%〉	7,581 〈66.9%〉	11,340 〈100.0%〉
敷根	士 926 〈39.7%〉 卒 2 〈0.1%〉 旧神官 8 〈0.3%〉	1,397 〈59.9%〉	2,333 〈100.0%〉	新城	士 625 〈35.5%〉 卒 57 〈3.2%〉	1,082 〈61.3%〉	1,764 〈100.0%〉
福山	士 1,363 〈27.8%〉 卒 3 〈0.1%〉 旧神官 95 〈1.9%〉	3,442 〈70.2%〉	4,903 〈100.0%〉	小根占	士 839 〈16.6%〉 旧神官 8 〈0.1%〉	4,222 〈83.3%〉	5,069 〈100.0%〉
財部	士 2,010 〈34.6%〉 旧神官 90 〈1.6%〉	3,705 〈63.8%〉	5,805 〈100.0%〉	大根占	士 543 〈15.0%〉	3,071 〈85.0%〉	3,612 ※実際の集計値は 3,614 (100.0%)
恒吉	士 705 〈26.3%〉 旧神官 31 〈1.1%〉	1,948 〈72.6%〉	2,684 〈100.0%〉	田代	士 437 〈26.2%〉	1,228 〈73.8%〉	1,665 〈100.0%〉
市成	士 935 〈46.6%〉 卒 106 〈5.3%〉	966 〈48.1%〉	2,007 〈100.0%〉	佐多	士 516 〈11.7%〉	3,907 〈88.3%〉	4,423 〈100.0%〉
岩川	士 1,668 〈42.3%〉 卒 154 〈3.9%〉	2,120 〈53.8%〉	3,942 〈100.0%〉	内之浦	士 586 〈20.1%〉 卒 1 〈0.1%〉 旧神官 2	2,320 〈79.8%〉	2,909 〈100.0%〉
国分	士 4,538 〈26.5%〉 卒 129 〈0.7%〉 旧神官 28 〈0.2%〉	12,441 〈72.6%〉	17,144 ※実際の集計値は 17,136 (100.0%)	高山	士 1,409 〈21.0%〉 卒 43 〈0.6%〉 旧神官 95 〈1.4%〉	5,150 〈76.9%〉	6,697 〈100.0%〉
踊	士 1,532 〈40.0%〉 旧神官 53 〈1.4%〉	2,242 〈58.6%〉	3,826 ※実際の集計値は 3,827 (100.0%)	串良	士 1,406 〈16.4%〉 卒 37 〈0.4%〉	7,148 〈83.2%〉	8,591 〈100.0%〉

郷名	士卒数 〈比率〉	平民数 〈比率〉	合計 〈比率〉
鹿屋	士 825 〈12.4%〉 卒 2 旧神官 17 〈0.3%〉	5,788 〈87.3%〉	6,635 ※実際の集計値は 6,632 (100.0%)
始羅	士 497 〈16.1%〉 卒 3 旧神官 26 〈0.8%〉	2,569 〈83.0%〉	3,095 〈100.0%〉
大始良	士 1,001 〈22.9%〉 卒 8 〈0.2%〉	3,366 〈76.9%〉	4,385 ※実際の集計値は 4,375 (100.0%)
花岡	士 624 〈22.0%〉 卒 111 〈3.9%〉	2,103 〈74.1%〉	2,845 ※実際の集計値は 2,838 (100.0%)

郷名	士卒数 〈比率〉	平民数 〈比率〉	合計 〈比率〉
高隈	士 358 〈17.5%〉 旧神官 7 〈0.3%〉	1,682 〈82.2%〉	2,047 〈100.0%〉
百引	士 578 〈24.8%〉 卒 6 旧神官 8 〈0.3%〉	1,742 〈74.6%〉	2,334 〈100.0%〉
種子島	士 〈☆〉 卒 〈☆〉 旧神官 〈☆〉	〈☆〉	〈☆18,000余〉 〈100.0%〉
屋久島	士・卒 0 〈0.0%〉	6,682 〈100.0%〉	6,682 〈100.0%〉

- 注1. 本表は、近世中期以降幕末期までの大隅国所属の郷を抽出して作成してある。
2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
4. 記載が欠落している種子島の項の総人口(☆)については、西村天因の『南島偉功伝』に収める慶応4年=明治元年(1868)段階の数値を参考までに掲げた。
5. 表末の合計数値には上記注4の種子島分は含めていない。
6. 安政元年頃改定の『要用集』及び上記『南島偉功伝』には種子島の人口について次のような数値を掲げる。

[出典：『薩隅日地理纂考』(明治4年正月15日、鹿児島県教育会編)]

(参考) 種子島・末吉を除外した合計人口

種子島・末吉を除く大隅国人口	士族など数	平民数	合計
	57,679	133,470	191,334
	※実際の集計値は 57,659 (30.2%) (内訳) 士族 54,376 (28.5%) 卒族 2,656 (1.4%) 旧神官 627 (0.3%)	※実際の集計値は 133,457 (69.8%)	※実際の集計値は 191,116 (100.0%)

(1) 『要用集』に掲げる種子島人口
嘉永5年(1852)の種子島人口 13,932人(100.0%)
〈内訳〉

A. 士身分人口判明分

①家来男 2,450人
②家来女 2,153人
③出家男 39人
計 4,642人(33.3%)

B. 被支配の平民身分人口判明分(含む、家中足軽)

④百姓男 1,966人
⑧百姓女 1,395人
⑨塩屋男 319人
⑩塩屋女 212人
⑨浦人男 668人
⑨浦人女 482人
⑨野町人男 43人
⑨野町人女 26人
⑫家中足軽以下 4,113人
末々男女
⑬公義流人男女 66人
計 9,290人(66.7%)

☆当時、日向国所属の末吉郷の人口

郷名	士卒数	平民数	合計
末吉	士 2,090 〈24.3%〉 卒 20 〈0.2%〉	6,477 〈75.4%〉	8,587 〈100.0%〉

☆明治初期の大隅国推計人口(含、種子島・末吉)

大隅国総人口	21万後半~22万人台か(100.0%)
(内訳) 士・卒等	6万6千人前後か(約30%)
平民	15万3千人前後か(約70%)

7. 嘉永5年~明治30に至る約45年間の種子島人口の増加分(10,297人)は嘉永期の約74%の増加、年率1.6%の増加率である。ほぼ同じ増加率で明治初期にも種子島人口が増えていったと仮定した場合、明治4年段階の種子島人口として18,700人前後の数量が得られる。また当該期の種子島の士身分及び被支配庶民人口が嘉永5年段階とほぼ同じ比率でそれぞれ存在していたと仮定して算出すると、前者について約6,200人、後者について約12,500人の数量が得られる。これらをベースにして藩政最末期(明治4年頃)の大隅国総人口及び族籍別人口内訳を旧属末吉郷(当時、一時期日向国編入)の分まで含めて推定すると、おおよそ上表下段に示したような推定人口を得ることができる。

3. 日向国諸県郡

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
綾	士 878 〈68.8%〉	398 〈31.2%〉	1,276 〈100.0%〉
小林	士 2,272 〈44.8%〉	2,803 〈55.2%〉	5,075 〈100.0%〉
高岡	士 2,016 〈33.4%〉	4,023 〈66.6%〉	6,039 〈100.0%〉
穆佐	士 637 〈34.1%〉	1,233 〈65.9%〉	1,870 ※実際の集計値は 1,870 (100.0%)
倉岡	士 311 〈29.0%〉	760 〈71.0%〉	1,071 〈100.0%〉
上三股 ※旧高城郷 なり	士 1,093 〈39.0%〉	1,707 〈61.0%〉	2,800 〈100.0%〉
山之口	士 587 〈31.4%〉	1,283 〈68.6%〉	1,870 〈100.0%〉
下三股 ※旧勝岡郷 に都城梶山 村が入る	士 3,168 〈50.9%〉	3,053 〈49.1%〉	6,221 〈100.0%〉
都城	士 5,386 〈41.7%〉 卒 238 〈1.8%〉	7,295 ※実際の集計値は 7,296 〈56.5%〉	12,919 ※実際の集計値は 12,920 〈100.0%〉
荘内 ※旧都城の 一部を割き 設置	士 5,307 〈45.5%〉	6,367 〈54.5%〉	11,674 〈100.0%〉
真幸 ※旧吉田・ 馬関田郷よ りなる	士 979 〈59.4%〉	668 〈40.6%〉	1,647 〈100.0%〉

郷名	男子数 〈比率〉	女子数 〈比率〉	合計 〈比率〉
加久藤	士 712 〈34.6%〉	1,343 〈65.4%〉	2,055 〈100.0%〉
飯野	士 1,028 ※実際の集計値は 1,128 (51.8%)	1,050 〈48.2%〉	2,078 ※実際の集計値は 2,178 (100.0%)
須木	士 912 〈81.6%〉	206 〈18.4%〉	1,118 〈100.0%〉
野尻	士 1,011 〈44.8%〉	1,245 〈55.2%〉	2,256 ※実際の集計値は 2,256 (100.0%)
高原 ※旧高崎郷 を編入せり	士 2,313 〈48.1%〉	2,498 〈52.9%〉	4,811 〈100.0%〉
志布志	士 1,643 〈24.5%〉	5,052 〈75.5%〉	6,695 〈100.0%〉
松山	士 578 〈30.3%〉	1,327 〈69.7%〉	1,905 〈100.0%〉
大崎	士 1,775 〈31.7%〉	3,831 〈68.3%〉	5,606 〈100.0%〉
合計	32,844 ※実際の集計値は 32,944 (41.7%) (内訳) 士族 32,606 ※実際の集計値は 32,706 (41.4%) 卒族 238 (0.3%)	46,142 ※実際の集計値は 46,143 (58.3%)	79,087 ※実際の集計値は 79,087 (100.0%)

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降幕末期までの日向国諸県郡所属の郷を抽出して作成してある。
2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
4. 明治4年段階の日向国諸県郡には旧属大隅国の末吉郷が編入されていたが、前代のデータの比較や利用の便宜上、末吉郷の人口は日向国から抜いて大隅国の箇所に移して掲げ、人口集計値も大隅国人口に加えて示してある。

☆明治初期の日向国諸県郡人口（実集計値）

※志布志・松山・大崎を含む、末吉は除く

日向国総人口	79,087人	(100.0%)
(内訳) 士・卒	32,944人	(42%弱)
平民	46,143人	(58%強)